



# 夢☆きらめに

No.  
19

加東市教育委員会／加東市人権・同和教育研究協議会 平成27年3月1日



加茂保育所の公開保育『かもの森 秋あそび』

## 目 次

- |                  |     |                 |       |
|------------------|-----|-----------------|-------|
| ●市同教の活動          | 2・3 | ●第8期市民人権講座修了者名簿 | 8     |
| ●小中学校人権教育講演会     | 4・5 | ●保育園児の共同作品      | 9～11  |
| ●学校教育部会・企人協の活動   | 6   | ●中学生の人権作文       | 12～15 |
| ●広域隣保活動事業・市民のつどい | 7   | ●新着DVD・図書紹介     | 16    |

我が家は、両親・私たち夫婦・長男夫婦・孫たちと四世代で暮らしている。ところが二年前、元気だった母が急に亡くなり、その後父が亡くなった。一緒に暮らしているときは、お互いに気苦労もあった。しかし、加東市内でもこのような家庭は珍しいのではないかと思う。

兵庫県では、人権教育の様々な課題の中で、その時々のニーズに合った啓発ビデオが制作されている。少子高齢化が言われる中、二十五年度は「無縁社会」をテーマにした「ヒーロー」が制作された。私の家庭や近所の家庭を見ているとあまり関係がないようにも思える。しかし、そのビデオの中には色々と考えさせられることがたくさんある。地区の住民学習会でも視聴していただいたところもあるが、**他人事ではなく自分の事**として考えていたらいいのではないだろうか。

我が家では、食卓に母が育てた野菜がいつもならんでいた。今更ながらにありがたみを感じている。母が亡くなつてからは、代りに近所の方から野菜が届くようになった。何とありがたいことだらう。多くの方々に「感謝」！「感謝」！

我が家は、両親・私たち夫婦・長男夫婦・孫たちと四世代で暮らしている。ところが二年前、元気だった母が急に亡くなり、その後父が亡くなった。一緒に暮らしているときは、お互いに気苦労もあった。しかし、加東市内でもこのような家庭は珍しいのではないかと思う。

兵庫県では、人権教育の様々な課題の中で、その時々のニーズに合った啓発ビデオが制作されている。少子高齢化が言われる中、二十五年度は「無縁社会」をテーマにした「ヒーロー」が制作された。私の家庭や近所の家庭を見ているとあまり関係がないようにも思える。しかし、そのビデオの中には色々と考えさせられることがたくさんある。

**「感謝」**

## 高めよう人権意識、広げよう交流の輪

加東市人権・同和教育研究協議会

### 地区住民学習から

（27年1月末現在）

各地区での年間事業も定

着化しています。差別解消に向けた人権学習。本年は「同和問題の解決を課題

とした学習会の開催三ヵ年計画」の三年目に当たり、

講師招聘や資料提示による学習会の開催が報告されま

した。

参加者の増加をめざして

地区の事業やバス旅行等人の集まる機会をうまく活用

して、人権ビデオを視聴し

たり、いじめについて話を

されたりなど、よく工夫さ

れた取組が見られましたが、

人権学習となると、参加者

は減少傾向にあります。

また、住みよいまちづくりをめざしての取組と連携

して、地区をあげての「ふれあい祭り」「伝統行事」の実施や「ふれあいサロ



- **《主な感想》（抜粋）**
- 人は見た目ではない。偏見をなくし、すこしの勇気

### 学習内容

① 「ヒーロー」を視聴して

76地区で、延べ約2,675人がビデオを視聴して、感想を話し合ったり、意見交換したりして学習が行われました。

● 人と人をつなげる行動は、やはり声掛け・挨拶・何気ない会話。人は見た目ではない。偏見をなくし、少しの勇気と優しさで、人と人のつながりは深くなっています。



- ③ 講演会等

講師を招いての講演会が28地区（1,393名）で実施されました。

演題は、「同和問題啓発

資料『ふるさと』について

「笑いでつなぐ心と

心」「人権について」

（NPO法人ゆう工房 前理事長 浦野龍也さんによ

と優しさで、人と人とのつながりは深くなっていく。  
● どこの地域でも起こりうる身近にありふれた何気ない日常の生活の一部が描いてあり、参加者にとつてもわかりやすい内容のため、感想も出やすかつた。触れ合う機会が増えれば、お互いが相手を理解でき、思いやりの心で接することができると思いました。

● ドラマを通してではあるが、自分自身や家族の生活における人権課題に気付くことができ、身近なところから実践することの大切さが見えてきた気がする。これから的生活において気付いたことから実践していくたい。

### 《主な講師》

地区長・子ども会会长・

民生児童委員・社会教育委員

員、田村省三さん、大東太郎さん、堀井洋一さん、有

本恵子さんご両親、浦野龍也さん、落語家、住職他

（順不同）

ン」の会場で人権啓発パネルを展示するなど特色ある取組を工夫した地区もあります。

● さらに、年間を通じた「人権啓発紙」や「地区だより」を発行した地区もあります。

● 7地区で、延べ196人が「新・人権入門」「いじめと戦おう」「生活中の人権」「部落の歴史」「日常の人権と人権」「職場の人権Ⅰ・Ⅱ」「同和問題と人権Ⅰ・Ⅱ」「心の窓を拓いて」「結婚差別400事例」などを視聴して学習されました。

● 郷土の歴史（神社や伝承・伝記）を学ぶことを通じて、文化を次世代につないでいくとする目標をもったされた地域の学習成果も特徴的でした。

● このほか、ニュースで話題になった「佐世保事件について」「『ヘイトスピーチ』と人種・民族・国家の差別について」「「袴田事件について」学習された地区もありました。

● 本恵子さんご両親の講演会」という人権そのものに関わる内容から、地域のニーズに応じた「楽しい人権

## 同和問題啓発資料 「ふるさと」を活用して

「ふるさと」は同和問題への気づきと理解を深め、同和問題解決への実践力を培うと共に、学習を通じて住民同士の豊かな人間関係を築き、あらゆる人の人権が尊重され差別や偏見のないまちづくりを目的に昨年度作成したものです。



市民人権講座、民生児童委員人権研修会、消防団人権研修会、企人協研修会、馬瀬、山口、嬉野東、依藤野、下鴨川、曾我、新町、岩屋、社1区、沢部団地、稻尾、西垂水、下滝野、岡本、戸地区等で学習されました。

今年度の住民学習では主要な教材の一つとして、研修会、地区の住民学習会を中心に、様々な場面でご利用いただきました。

**西垂水地区の学習会より**  
例えですが、「あなたの結婚の条件は?」という問い合わせの中から結婚問題を通じて部落差別解消の意味、同和問題への気づきと理解を深めることの大切さ、また今回の学習会を通じて私たち住民同士の豊かな人間関係を築く方法を教えていただきました。

### ● 主な活用実績

社会教育推進委員会、住民学習会・リーダー研修会、加東市老人クラブ連合会東条支部人権学習会、第2回

## ふれあい活動



各地区で、住みよいまちづくりをめざして、人権尊重の理念にもとづいた様々なふれあい活動が実施されました。各地区で普段接することの少ない三世代の人々が交流し合う場が数多く設定されています。多くの方々が触れ合うことにより、明るく豊かな人間関係が築かれるのではないかでしょうか。また、他地区と交流をされていることも素晴らしいと思います。さらに、ふれあい活動の前に人権学習をされる地区もあります。

## 《主な実践内容》

- スポーツ活動 グランドゴルフ、ボーリングなど
- 伝統行事の継承、祭り文化活動（カラオケ、料理、楽器の生演奏等）
- ふれあいの集い 餅つき、花火大会、レンゲ祭り、とんどう連縄づくり、相撲注連縄づくり、相撲苗植え、ぶどう狩り、みんなで歩こう会



(下三草地区)

## チラシの作成

学習会のチラシを作成し、住民に広く参加を呼び掛けた地区もありました。



### 住民学習の成果発表!

日時 平成27年2月14日(土)  
13時～30時

場所 滝野文化会館 屋度(服部さん) 下滝野

(阿江さん) 古家(岸本さん) の三地区より本年度の取組が発表されました。お疲れ様でした。

詳細はP.7に掲載していますので、ぜひとも来年度の参考にしてください。



加東市マスコットキャラクター「加東 伝の助」

## 「片足切断からの復活」

講師：鈴木 徹さん（義足のプロアスリート）

日時：10月3日（金）14:00～15:10

場所：滝野東小学校

対象：滝野東・滝野南小学校の5・6年生



### ◆講演より

逆境にたたされた時、自分に大好きな何かがあれば、乗り越えられるができると言っていたのが印象的でした。

夢をもつこと、努力すること、そして何よりもあきらめないことの大切さを伝えくださいました。

鈴木さんは高校卒業直前に自らの交通事故で右足を膝下11cmを残して切断。その後、リハビリの一環として走り高跳びに出会い、走り高跳びの競技で日本人初のパラリンピック出場を果たされ、その後も数々の世界大会にご出場されています。



### 児童・生徒の感想

今回、この話を聞いて私は、義足で生活する時の思いを、初めて想像することができました。でもまだ、未来で自分がもし足を切断するようなことになったとしても今は考えられません。足を切るということは、それぐらいつらいことなんじゃないかと私は思います。もし、私が足を切ることになったら、その時は自殺を選ぶかもしれません。そうならないように、私も大きな夢を持ちたいです。生きている限り、がんばりたいと思えるような、大きな大きな夢を持ちたいです。今回、私は夢を持つすばらしさを教えてもらいました。人生は何があろうと一度きりなので、後悔しないような人生にしたいです。（6年生）

## 教育講演会

「人を認めることの大切さや人を思いやり共に生きる喜びを見つける」



講師：田中 ゆかさん、  
伊藤 ひろしさん  
(うたとハープ・パーカッション)

日時：2月5日（木）14:00～15:10

場所：社中学校

対象：社・福田・三草・米田・鶴川小学校の5・6年生



### 児童・生徒の感想

いろいろな楽器を知れてよかったです。いやなことがあったときのたいしょのしかたや心をほぐす方法を知れたのでよかったです。オリジナルの曲はかしにしつかり意味があっていいと思いました。これから的人生はいろいろなことがあるということが分かったのでよかったです。（5年生）

私は、講演会を聞いて、「人は生きていることは支えられて生きている」ということが特に心に残りました。たとえ、つらいことがあっても友達や家族がいてくれるからそれをのりこえられる。それはすごく大切なことだと思いました。パーカッションとハープの演奏もすごくきれいな音色が体育館にひびいていてすごくきれかったです。私は最後に演奏してもらったのが特に気に入りました。（6年生）



### 児童・生徒の感想

悔しかったら、次頑張っていけばいい、思う気持ちが大事だと感じました。諦めず、夢に向かって努力し続けていたら、しっかりと神様も見てしてくれる、夢は叶うという言葉を聞いて、僕もこれから努力していきたいと思います。応援してもらえる人になるためには、家族や支えてもらっている方に、感謝しながら、人生を歩んでいきたいと思います。（中学3年生）



## 「言葉のちから 生きる力」



講師：渡辺 祥子さん（フリーアナウンサー）

日時：9月26日（金）14:00～15:10

場所：東条文化会館

対象：東条西・東条東小学校の5・6年生

### ◆講演より

「言葉は相手に届く前に自分の心に響く」いやな言葉は相手を傷つけるけど、自分も傷つけます。花さき山のお話を通して、自分のことよりも相手のことを思いやれる優しさがあるということを教えてくださいました。

## 「違いを楽しみ、力に変える」 ～多文化共生“新”時代～

講師：にしゃんたさん（羽衣国際大学准教授、タレント）

日時：10月4日（土）11:00～12:30

場所：社中学校 学校オープン

対象：社中学校の全校生徒

### 児童・生徒の感想

「人と人は違って当たり前」と幼いころから父と母に言われてきたけど、いつも自分はみんなと同じようにできているか、浮いていないかなと心の奥の方で小さく思っていました。みんなと同じこと、同じようにしてないとなぜか不安になるときがよくありました。でも、今回にしゃんたさんの話を聞いて改めて同じ人間はないし、違っていて当たり前なんだなと思いました。「共生」共に生きるだけじゃなく、「共笑」共に笑うこと、「共楽」共に楽しむことを大切に違うことを悪いこと思わず、もし、違う人がいてもあの人は違うからと思わず仲良くなれるようにしたいです。（中学2年生）



### 児童・生徒の感想

私は、渡辺先生の話を聞いて、特に心に残った事は、普段している事がとても大切だということです。例えば、毎日は1日1日が奇跡でありがたい事だと思います。これから的一生を大事にしたいと思います。想像力はとっても大切な事や、相手にしたことは自分にもかえってくるなど、今まで気づかなかった小さなことや大きなことも、今日の講演会で分かりました。当たり前のことも、今日改めて話を聞いて良く解りました。今日話を聞けなければ、毎日の感謝の気持ちを持てなかっただと思います。これからの生活がとても楽しみです。（5年生）

## HILL STONE 音楽の力 ～みんなで繋げよう明日へ～

講師：HILL STONE（福島県出身の音楽デュオ）

日時：11月29日（土）14:00～15:30

場所：東条中学校 学校オープン

対象：東条中学校の全校生徒

心のこもった歌に東日本大震災の経験や活動のお話を交えて、『人と人との助け合い』『家族の絆』『命の大切さ』を生徒一人一人の心に伝えてくださいました。



## 小中学校人権



### 児童・生徒の感想

東日本大震災の事をもっと詳しく聞いて、たくさんの人々が亡くなっている中でも家族や親せきなど友達もたくさん亡くされた人がいてとても悲しいなと思いました。考えてみたら想像できません。それくらい恐ろしく悲しい事なんだと思いました。そして HILL STONE はとても勇気づけてくれるいい歌を歌ってくれました。色々な歌があつたけれど、すべてが心に残る歌だなと思いました。そして、津波はとても恐いし、いつ来るか分からないので、家族としっかり話したいと思いました。（中学1年生）

## 学校教育部会から

### 公開授業

学校教育部会では年間3回の人権・同和学習の公開授業を行っています。24名の部員が授業を参観し、授業後の研究協議を通して人権課題の解決に迫る授業改造に努めています。

### 東条中学校公開授業

10月16日



● 指導者 安田 詩明教諭  
● 題材 「松本君への手紙」  
● ねらい 正義を重んじ、差別や偏見をなくし、勇気を持ってよりよい社会の実現を目指す態度を育てる。

最後の質問のところで、両者に対する意見がでたのが良かった。

### 加茂保育所公開保育

う！

● 指導者 溝端 恵美先生  
● テーマ 「かもの森 秋あそび」→異年齢児でかわわり、繋がり合って、おもいやりの心を育てる



11月21日

● 題材 「チャレンジ まち探検」名探偵ヒガシになろう！

● ねらい 探検活動でお世話になつた人におもてなしの場を通して、お世話をなつた人に感謝の気持ちを表すことができる。自分の役割に一生けん命取り組んだり、友達と協力したりできる。



12月4日

### 東条東小学校公開授業

● 特別支援学級合同  
● 指導者 中村 清美教諭

● 感想 子ども達の日常生活の中で、身近に存在している物をお店屋さんでうまく実演できていて、見ていて感心することが多かったです。

● 感想 子どもたちの中で、関わり合いができていた。それがお年寄りへの接し方として表れていた。つまり、生活の中で育まれたものが、実践化の形で出てくる。だからこそ、この交流を続けていくことが大切である。

## 加東市企業人権教育協議会の活動

### 管外研修（11月21日）

### 「丹波マンガン記念館」を訪問

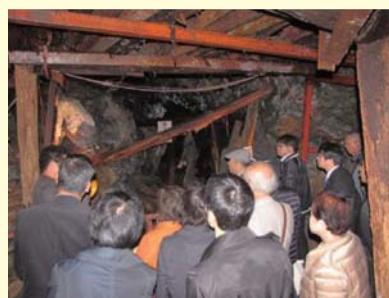
年までの92年間、マンガンが発掘されていたそうです。

記念館には丹波マンガンの生成、開発の歴史、マンガンの利用などに関わる資料が収集・展示されています。

加東市同教、人権擁護委員加東部会、企人協の3団体合同による視察として、参加者は熱心に目と耳を傾けていました。

今回は、平和人権・産業・自然科学の視点から、主にマンガン鉱山で従事した方々の人権について学習しました。

京都府京都市にある「丹波マンガン記念館」と「美山かぶきの里」、「おかしの里丹波」へ研修に出かけました。



お誘いとお願い

加東市マスコットキャラクター「加東伝の助」



未加入の企業・商店の皆様、ぜひとも、加東市「企人協」に加入ください。

京都府京北、京都府南丹市を中心とした丹波盆地に、加入申込は人権教育課まであります。明治22年から昭和58年からこそこそ、この交流を続けていくことが大切である。

企人協事務局 TEL 43-0544まで

# 広域隣保活動



## コミュニケーション麻雀講座



通常の麻雀とはルールが異なり、ゲームはチーム戦で行います。チーム内で話し合いながら進めていきます。他のチームの出方を窺いながら、チームのみんなで相談します。

竹でできた牌は持ち上げるだけでも腕の良い運動になります。みなさんコミュニケーション麻雀の牌の大きさと重さにびっくりされていました。牌を渡す時は「どうぞ」、とってももらったら「ありがとう」などみんなで声をかけ合います。最後の最後まで笑いの絶えない楽しい講座となりました。

## 救急入門！ 心肺蘇生法とAED講座



実際に人形を使って人工呼吸と心臓マッサージ、AEDを体験しました。みなさん積極的に参加してくださいました。体験を通して、胸骨圧迫の基準「胸を5センチ沈める」には、かなりの力が必要なことが分かりました。



## 悪質商法対策講座

今回は振り込め詐欺、送りつけ商法等の悪質商法の手口を知り、消費者トラブルの解決方法と一緒に学びました。被害にあわないためにはどうすればよいか、専門の消費生活相談員から、悪質商法の見破り方や上手な断り方などを学びました。あいまいな言葉は使わず、きっぱりと断ることが大切です。



# 人権を考える市民のつどい2015

2月14日(土)、滝野文化会館で、「人権を考える市民のつどい2015」が開催されました。開会行事に続き、第1部の中学生による人権弁論では、市内4中学校の生徒に自分の経験を通したそれぞれの思いが込められた作文を発表していただきました。(p12~14に掲載しています。)



## 第2部 住民学習実践発表

### 【屋度地区】(発表者／服部公一さん)

- ①楽しい人権学習—お笑い人権高座—  
(屋度寄席)「落語会 in 屋度」  
『ちりとてちん』爪田家 粋花  
『仁義なき抗争』爪田家 酔笑  
『一文笛』関大亭 狂角
- ②みんなで歩こう会

### 【下滝野地区】(発表者／阿江孝仁さん)

- ①交流会(敬老会・夏祭り・秋祭り)
- ②パークゴルフ・情報交換
- ③人権学習会  
啓発ビデオ「ヒーロー」の視聴  
同和問題啓発資料「ふるさと」の学習



### 【古家地区】(発表者／岸本知哉さん)

- ①人権学習会の実施  
啓発ビデオ「ヒーロー」視聴と意見交換
- ②クリーンキャンペーンの実施(2回)
- ③地域伝統行事「阿弥陀堂祭」にあわせた人権講話



## 第3部 歌と会話劇

### 「未来からあなたに

### ～歌と会話劇から人権を考えよう～

加古川市人権コーラス“未来”



人権を考えることや差別を許さないこころ、人と人とのつながりの大切さをテーマにした会話劇とオリジナル楽曲を披露していただきました。  
総勢15名のみなさんから、たくさんあったかパワーをいただきました。



# 第8期加東市民人権講座修了者名簿

第8期加東市民人権講座を3回（2回と補講を含む）受講し、修了書を交付された皆さんです。

様々な人権課題について学習していただきました。学んでいただいたことを地域やご家庭で実践していただきますようお願ひいたします。

平成27年3月1日現在

【社一区】 安達吾朗	杉本和樹	笹倉直記	【牧 野】 西山寿一	田尻良文
【社二区】 藤原寛三			【吉 馬】 藤原通弘	
【社三区】 川井二三夫	田中通博	田中明子	【やしろ台】 生川初恵	
【社四区】 横山正行	深水泰昌	鈴木哲雄	【上鴨川】 東谷雅之	
【社五区】 吉川大資	向 正信	藤原重信	【下鴨川】 藤浦克昭	
【ひろのが丘】 小林かおり			【平 木】 田中貞夫	神田耕司
【藤田南】 宮本寿宏			【光明寺】 黒崎ひとみ	松岡由枝
【嬉野台団地】 白井さゆり	藤本しおぶ		【上滝野】 黒崎起世子	長谷川佐恵美
【山 国】 出井利之	稻岡一喜	北谷多津子	藤原徳子	芹生真弓
【松 尾】 高橋和喜		石井邦枝	奥井由美子	高見則子
【出 水】 井上国彦			【下滝野】 村上比佐代	田中智秀
【田 中】 堀内一也	柏木 進		川越美紀	阿江幸雄
【貝 原】 服部文子			藤井勝巳	荒木貞代
【野 村】 時井喜美子	森本早百合		【新 町】 永井一成	多比良宇信
【西垂水】 上月純一			久保義輝	宮原文隆
【家 原】 白井泰三	山本哲誠	永井祐子	森脇孝夫	堀江康夫
【上 中】 依藤幹男			竹内 進	
【梶 原】 入江倫史	酒井義人		【北 野】 堀 信敏	梶原芳美
【喜 田】 岸本吉博	岸本勇人	大村竜也	松本みづ子	石井紀子
【沢 部】 友藤正広	赤木和広		【穂 積】 中塚正明	末広照夫
【沢部団地】 唐木雅子	唐木春子		稲 尾】 竹内善範	藤川正幸
【福 吉】 玉井義明	小林一彦		【曾 我】 竹内敏郎	竹内祥貴
【上 田】 壱井俊秀	岸本浩美	吉川 忍	【多井田】 土江政代	田中喜代子
【大 門】 蓬萊裕美子	稻継俊文		【河 高】 小林義一	神田美恵子
【西古瀬】 井上孝則	井上千里		藤井芳子	岩本愛子
【中古瀬】 竹本ひとみ	小林多美子		大久保勝	
【東古瀬】 小紫ます子	内藤義久	小紫勝信	【高 岡】 岡崎勝仁	高橋信之
【屋 度】 谷川洋右			鈴木良和	
【東 実】 小林早苗	山口菜穂美		【天 神】 油谷健次郎	武中桂子
【 番 】 大槻真澄			松本よし	山中幸代
【廻 游】 藤木厚己			【古 家】 久米ひとみ	
【池之内】 藤原英子			【常 田】 山本由里子	
【湖翠苑】 五藤静枝			【秋津台】 繩舟茂良	
【上久米】 伊藤 剛	伊藤哲昭	坂本 茂	【西 戸】 広西英二	
【下久米】 河村稔秋	山本勇造		【少分谷】 岡田敏英	
【上三草】 片岡広司	中村拓見		【貞 守】 小坂征幸	
【中三草】 畑中善成			【長 井】 米沢かをり	
【下三草】 根山節子	大西君江		【横 谷】 寛長みゆき	福田加代子
【木 梨】 白井純男	白井哲郎	石井耕一	【岡 本】 片山公子	藤本浩司
【藤 田】 藤原康美			【岩 屋】 久保儀人	国近信幸
【山 口】 田尻清治			【新 定】 岸本英二	藤原義明
【馬 瀬】 大前孝典			石田久美子	石田和恵
			【吉 井】 市川 央	
			【小 沢】 山本信行	
			【栄 枝】 森 泰輔	藤原知代
			【松 沢】 長浜敏郎	岩崎雅俊
			【東垂水】 土肥千稔	土肥弥生
			【 薮 】 藤井昭代	
			【依藤野】 岩崎一彦	
			【嬉野東】 柿谷一産	柿谷ひとみ
				立岡高昭

(敬称略)

# 人権啓発作品展

市内の保育園（所）の園児が「市民一人ひとりの幸せが実感できるまちづくり」をテーマとした人権啓発作品を作成し、秋のフェスティバル（平成26年11月1日～2日）や人権週間期間中にやしろショッピングパークBioで人権啓発展（平成26年12月3日～17日）を行いました。

子どもたちのあたたかい心に触れる事が出来ました。



## むしのうんどうかい

ひろいのはらのこすもすばたけで、  
なかまとたのしむ、  
むしのうんどうかいがはじまりました。

**社保育園（4歳児）**



## みんなで楽しい栗拾い

おともだちといっしょに  
バケツにいっぱい栗を拾って楽しかったよ。  
**社保育園（5歳児）**



## がんばったよ!!竹馬

ジグザグあるき、かたあしケンケン、上手にしたよ。  
はと組さん、いつも応援ありがとう。

**米田保育園（4・5歳児）**



## みんなでハーモニー♥

一人ひとりが繋がって、寄り添い、支え合い、  
一つになって、やさしい気持ちを奏でています。

**椿山保育園（5歳児）**

**友達と秋みーつけた!**

友達みんなで散歩に出かけ、秋の虫や花を見つけ、喜び、楽しんだことを表現しました。

**泉保育園 (5歳児)**

**みんなでぽかぽか**

みんなで育てた大事なおいも。  
みんなで食べると味も特別! 心も体もぽつかぽか。

**東条保育園 (5歳児)**

**緑組レンジャー参上!**

僕ら緑組レンジャーは動物、自然が大好き!!  
みんなみんな、なかよし♡なかまだよ!

**正覚坊保育園 (5歳児)**

**ががやけ いのち!!**

はるかな大地サバンナにも多くの命が輝いている。  
僕の命も私の命も輝いているよ。

**東古瀬保育園 (4・5歳児)**

**僕らは一人じゃない**

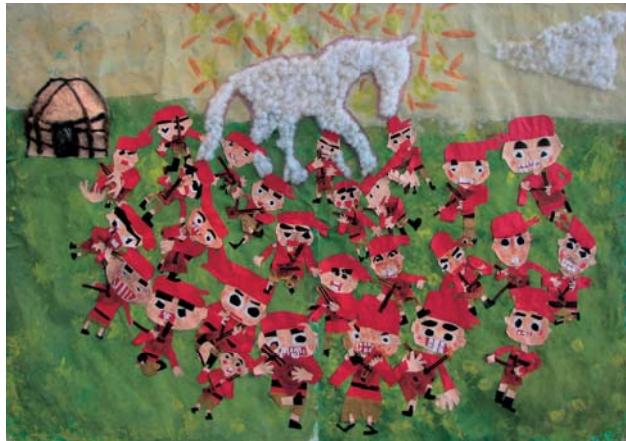
運動会の組体操でウェーブをして  
32人の心が一つになり、大成功した所を作品にしました。

**たきの愛児園 (5歳児)**

**一枚の素敵なりーフ**

子ども達から出た心温まる言葉を  
一本の大きな木に表現しました。

**河高保育園 (5歳児)**

**ずっとともだちだよ！**

かなしないで わたしがいなくなつても  
馬頭琴になつてずっとそばにいるよ。

**加茂保育所（5歳児）**

**やさしいこころ**

そらをみるとやさしくなる。  
やさしいこころで、はなきやまにはなをさせよう。

**三草保育園（5歳児）**

**みんなともだち**

助け合おう 手と手を繋げば みんなともだち  
ほら 優しい気持ちが生まれるよ

**高岡育児園（4・5歳児）**

**笑顔の花を咲かせよう**

大好きな仲間と一緒に音楽を奏でていると、  
笑顔の花が、いっぱいいっぱい咲きました。

**秋津保育園（5歳児）**

**みんなとかわあそび**

川遊びを通して自然に親しむ。  
いろんな形の石をひろってダムをつくったよ。川だいすき!  
**鴨川保育園（4・5歳児）**

**人と音のハーモニー**

みんなと演奏楽しいな。  
素敵なりズムがいろいろな人に届くといいな。  
**さくら保育園（5歳児）**



## 「忘れられないあの日の出来事」

社中学校

3年 小紫 みく

私の祖母は認知症でした。一昨年の秋ごろから物忘れが激しくなっていましたが、年齢のせいだから仕方がないのだろうと思っていました。しかし、祖母の認知症は進行がとても早く、少し前までは、私たち家族のために食事の用意をしてくれたり、健康作りのために縄跳びをしたりしていたのに、気づいた時には、私が知っているおばあちゃんとは全く変わっていました。

認知症は祖母の人格まで変えてしまったのではないかと思うぐらい大きな変化をもたらしました。症状が進むにつれて幻覚が見えたり、深夜徘徊するようになりました。私たちは、何度も病院に連れて行こうとしましたが、祖母は自分はぼけてなんかいないと言い張り、なかなか病院に行こうとはしませんでした。症状は悪化する一方で、見兼ねた父兄が何とか祖母を説得して病院に連れて行きました。

診断結果はやはり、「認知症」でした。帰ってきた祖母に「どうやった?」と聞くと、「簡単やったで。全然大丈夫や。」と言っていました。しかし、母に聞いてみると、「全然あかんかった。」と、ただひと言でした。病気の進行を抑える薬はもらったものの、効くことはありませんでした。

祖母のことについて家族や親戚で相談し、施設に入れることも考えました。しかし、その話もうまくかみ合わず、全く前に進みませんでした。家族の中もピリピリとしたムードになり、私も少しいらいらして、そのいらいらを祖母にぶつけてしまったこともあります。「ばあちゃんが犬の散歩に行ってくるわ。」そう言った祖母に「ばあちゃんは家でおって。」と冷たく言ってしまったこともあります。

そして、クリスマスが近づいてきたある日、夜になっても祖母が家に帰ってきませんでした。私たちで捜しても見つかりませんでした。真冬のとても冷え込んだ夜でした。厳しい寒さの中、一刻の猶予もありません。私たちはすぐる思いで警察

に捜索願いを出しました。夜遅い時間にもかかわらず、警察や村の方々がたくさん来てください、懸命に捜してくださいました。しかし、祖母は全く見つからず捜索は翌日に持ち越されました。

翌日、早朝から捜索が再開され、私たちは家で待機することになりました。村中を何十人の警察の方や村の方が捜してくださいましたが、何時間待っても何の手がかりも報告もありませんでした。午後二時過ぎぐらいになって外が騒がしくなりました。「見つかったぞ。」初めに聞いたのがその言葉でした。私は安心と嬉しさで体の力が抜けました。ところが、次に聞いたのは、「亡くなっとった。」という言葉でした。うそや、そんなはずない。ばあちゃんが死ぬわけない‥‥。そう心の中で思っているのに、涙があふれてあふれて止まりませんでした。その時に、隣にいた地域の方が私の手を握り、「大丈夫や、大丈夫や。あんたらは、ようがんばった。」そう言って慰めてくださいました。

祖母は認知症になってから大変なこともありましたが、いっしょにご飯を食べたり、買い物に行ったりした思い出が今も心に残っています。病気が進行していく中でも祖母はいつも私を気づかい、助けてくれることもありました。けれど私は祖母が困っていた時に、どれだけ役に立てただろうか、祖母に優しくできただろうか、認知症になって一番つらくて、しんどかったのはおばあちゃんなのにと何度も思い返しては、自問自答しました。もっとおばあちゃんのそばにいて、いっしょに話をすればよかった、困っていることや悩みをもっと聞いてあげて、手助けできることをすればよかったですと、今になって思います。

祖母との突然の別れは、私に大きな悲しみと後悔をもたらしました。悲しみに暮れ、後悔の念にかられる私を励まし、支えてくれたのは、地域の方の「がんばりよ。」という励ましの言葉でした。私を気づかい温かい言葉をかけてくださる方、祖母のことを懸命に捜してくださった多くの方々の姿から、私は人の温もりや優しさを感じ、これから生きていく上で忘れてはならない大切なことを学びました。隣に誰が住んでいるかも分からず、近所づき合いもない、そんな時代になったと聞きたびに、私は危機感を覚えます。人と人がつながり合って温もりや優しさを感じられる世の中になるよう、私もできることから始めようと思います。

※第34回全国中学生人権作文コンテスト兵庫県大会  
優秀賞受賞（神戸地方法務局・兵庫県人権擁護委員  
連合会・神戸新聞社主催）



## 「豊かな 高齢社会へ」

東条中学校

2年 八尾 凪咲

近年、平均寿命の伸びや少子化が進み問題になっている中、高齢化も急速に進んでいます。日本の総人口に占める六十五歳以上の人口の割合は、約二十五パーセントです。つまり、四人に一人が六十五歳以上の高齢者だということです。

高齢化が進みつづけている中、高齢者に関する問題がニュースなどでも多く取り上げられています。それは、高齢者に対する就職差別、介護による身体的・心理的虐待、さらには高齢者の家族等による無断の財産処分など様々なものが挙げられます。

このような問題がたくさん起きる中、高齢の方が安心して毎日を過ごすためには、私たちには、どのようなことができるのでしょうか。また、このような問題をなくすためにはどうしたらいいのでしょうか。

ある日、私は電車に乗っていました。周りを見ると、お年寄りの方がずっと立ったままで電車に乗っていました。私は、席を譲ろうと声を掛けようと思いました。しかし、私は大勢の中で声をかける恥ずかしさもあり、すぐに自分から勇気をもって声をかけることができませんでした。そのとき、一人の女性が立っていた高齢の方に声を掛け、席を譲っていました。私は高齢の方方に席を譲らずに座ったままで、自分のことしか考えていました。

残念ながら、そのとき私は自分から行動することはできませんでした。しかし、周りのことを考え、行動されている人もいることがありました。もし、次にこのようなことがあったときには私も自分から席を譲ろうと考えることができました。同時に、私だけでなく、誰もが高齢の方や体の不自由な人などに席を自然に譲れる社会になっていったらいいなと思いました。

私は、このような親切な人が一人でも多くいると高齢の方が少しでも安心して過ごすことができるようになると思います。

一方で、年齢を理由に社会参加の機会を奪われ、

地域から孤立するといった問題も少なくありません。このような問題を解決するためには、年齢を問わず地域の様々な活動に参加し、地域の交流を深めることが大切だと思います。

現在、私が住んでいる地域では、高齢の方と子ども達とのふれあいの場があります。実際、私も小学校に通っていた頃、高齢の方と交流を行いました。そこでは、世代をまたいで一緒にさつまいもを植えたり、花を植えたりする姿がありました。さつまいもを植える活動では、高齢の方が積極的にさつまいもの植え方を指導してくださるなど、交流が盛んに行われています。私がこのふれあいの場にこれまで参加してきて感じたことは、「地域の方と触れ合う機会はこういった時にしかできない。」「一緒に活動をすることは楽しい」ということでした。この気持ちはきっと高齢者のみなさんも同じだと思います。

地域とのふれあう機会が定期的にあることで、日常生活でも話や相談をするなど交流の機会が増え、地域から孤立する人が少しでも減っていくと思います。ふれあう機会を増やし、高齢者のみなさん方が暮らしやすい社会に少しでも近づくことができると思います。

人と人が助け合い協力できる社会をつくることが、高齢者に関する人権問題が少しでも減るための一歩だと私は思います。また、高齢者の方が安心して毎日を過ごせるためにも、一人一人が高齢の方々の目線に立ち、考え、行動することが大切になると思います。

社会や地域など、場所を問わず、人同士が優しく触れ合うことから、高齢者が住みよい地域・社会が実現することを願っています。





## 「最初の一歩」

兵庫教育大学附属中学校  
2年 小寺 康太

肩を震わせ、こぶしを固く握りしめて立っている母を、僕はぼう然と見つめ返した。

「それはいじめです。絶対に許しません。」  
…いじめ？僕が？言葉が理解できない。僕は以前、ひどいいじめを受けたことがある。毎日が辛くて仕方なかった。その僕がいじめ？そんな馬鹿な。だって僕はあの時決めたんだ。あんな辛い思いを誰にもさせない。絶対にいじめはしないって。

「あなたの辛い経験を、人にもさせるの。」  
押し殺した母の声に、はっと我に返る。小学校入学当時の記憶がよみがえってきた。まだ一人で帰れず、友達と帰っていたある日、一人の男の子が追い付いてきてこう言った。

「みんな、康太がバイキンだ！逃げろ！」  
僕のことをいじめてくる子だった。その掛け声で周囲の子達が一斉に走り出した。一緒に帰っていた友達と一瞬、目が合った。少し遅れてその子も走り出す。僕は必死に追いかけた。そんなことが数日続いた。

ついに僕は追いかけるのをやめた。平然と歩いて、素早く脇道に消えた。それから一目散に走って帰った。家に着いた時、汗と涙で全身がびしょびしょになっていた…。

まざまざとよみがえる苦い思い出に、今日の出来事が重なる。数人の友人と一緒の帰り道、突然、一人の子が叫んだのだった。

「あいつが鬼だ！逃げろ！」

そして走り出す。みんなも走り出した。突然のことには僕は一瞬何が起きたのか分からなかった。少しして、鬼ごっこが始まったのだと気付いた。僕も遅れて走り出した。振り向く。後ろから鬼役の友達が走ってくるのが見える。僕はスピードを上げた。しばらくして振り向くと、友達の姿は消えていた。僕の大声の呼びかけに、前を走る友達たちは、みんな止まって振り返った。

「…帰ろうぜ。」

「捜さなくていいの？」

「すぐ来るさ。」

そう言われて、僕もゆっくり歩き出す。でも彼は来なかつた。

みんなと別れてから、僕は彼を捜しに戻った。ずいぶん捜したけれど見つからず、家に帰り、そ

のことを母に話したのだった。

母に言われるまで、僕は自分がいじめに荷担した事実に気づかなかった。自分も経験者なのに。ただ、「バイキン」が「鬼ごっこ」に変わっただけじゃないか。情けなくて涙がにじんだ。

あくる日、僕はその子に謝った。彼は許してくれた。僕は相手の子達にも、やめよう提案した。その子達も分かってくれて、いじめはなくなった。

いじめはいけないという指導は、小学生の時から何度も受けているし、いじめられた経験のある人もいるだろう。きっと「いじめ」を知らない人なんていない。それだけ「いじめ」は僕たちの身近に存在するものなのだ。

一方、「いじめ」のニュースを、僕たちはどこか遠い世界の出来事だと思っている。地球上のどこかの国で起こっている戦争の話を聞くのと同じだ。同情もする。気の毒だとも思う。でも、どこか他人事だ。

僕は絶対にいじめはしないと決めていた。なのに気づかぬうちに加害者になっていた。幸い、母のおかげでそのことに気づくことができた。いじめられた友達も、いじめた友達も、みんな優しかったから、もう一度やり直せた。僕は本当に運がよかったのだと思う。

いじめのおそろしさは、当事者だけではなく周囲を巻き込んでしまうところにある。苦しむのは被害者だけではない。被害者を救えない家族や友人も同じだ。同時に、いじめの加害者は、いじめている本人だけではない。僕のように、気づかぬうちに加害者になってしまっている…こんなおそろしいことが、実はあちこちで起きているのではないかだろうか。

いじめで自殺した子の周囲の人たちは、ほとんどがいじめに気付いていたという。でも誰も行動しようとはしなかった。または、できなかった。その無関心、傍観の姿勢が彼らを死に追いやったのだ。みんなが少しの勇気をもち、「やめろ」と止めていたら。親身に話を聞いてあげていたら。一体、どれだけの命が救われただろう。

いじめは、加害者にも被害者にもなってはいけない。でも、もっと大切なのは、傍観者にもならないことだ。傍観することは、いじめに荷担することと同じなのだから。

一人で行動することはとても難しい。でも、人がやってくれるのを待つのではなく、自分がやるのだとみんなが思えば、一人ぼっちではなくなる。行動した自分に続く誰かが必ずいてくれると信じられれば、きっとどんな困難な壁も乗り越えられるはずだ。僕は最初の一歩を踏み出せる人になりたい。また、行動する誰かに続く人でありたい。



## 「だれもが 過ごしやすく なるために」

滝野中学校  
3年 藤川 萌寧

私は、去年の十月に「トライやる・ウィーク」で、フロイデ滝野へ行きました。お年寄りの方とたくさんお話をしたり、一緒にお買い物に行ったりして、とても充実した五日間でした。

外出したときは、利用者さんの車いすを押して、買い物のお手伝いをしました。一緒に会話しながら買い物ができたことはすごく楽しかったです。けれど、私が押すのに慣れていないものもありますが、やりにくいな大変だなと思った場面と、利用者さん自身も大変そうだなと思う場面がいくつありました。

私が一番強く感じたのは、商品と商品の間の通路がいくつか狭かったところがあったことです。そこで曲がったり向きを変えたりするときは、特に大変でした。

次に、商品の置いてある高さです。車いすの人にとって高い、または逆に低いところにある商品がいくつもありました。付き添いの人がいれば、その人にとってもらいますが、一人で買い物をされている車いすの方は、商品を取りにくうだらうなと思いました。

考えてみると、私がやりにくいな大変だなと思ったところは、どれもこれも、健康な私たちにとっては大して気にならないことでした。お店の人も決して障害のある人のことを考えていないということはないと思います。ですが、私たちは、今までより深く障害のある人になったつもりで考えないといけないと思います。

私は、足の悪い祖母と一緒に買い物に行くとき、できるだけ早くカートを取りに行って、祖母が早く楽になれるようにしています。でもこれは、身内だから普通にできることですが、他

人となると、なかなかできないと思います。そうであれば、点字ブロックの上に自転車などの物を置かないことや、さりげなくドアを開けてあげることなど、障害のある人にとって安心できることをしてはどうでしょうか。

この広い世界にはたくさん的人が住んでいます。私のような健康な人もいれば、そうでない人もたくさんおられます。だれもが不自由なく安心して暮らすためには、お互いのことを深く考え、思うことが大切です。これは私たち健康な人が考えていかないといけないことだと思います。

特に、これから先は高齢者の方が多い社会になっていきます。多くの人が過ごしやすいくられるかどうかは、私たち若者の手にかかっています。私は、これから高齢者をはじめ、すべての人が過ごしやすくなるように頑張りたいと思います。



平成27年度  
地区住民学習  
推奨ビデオ

「あなたに伝えたいこと」

(36分)



を取り扱ったテキスト。さまざまな史料を手掛かりに中世へとさかのぼって部落史をどうえなおし、未来に對する確かな展望と持続的な行動指針を探る。



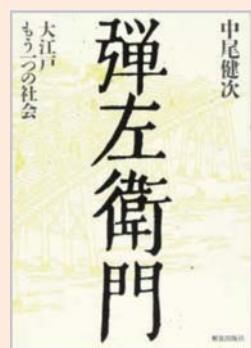
インターネット時代における同和問題  
同和問題を正面から取り上げ、この問題が決して他人事ではないこと、正しく知ることが同和問題をはじめとする人権問題の解決につながることを描いた作品。インターネットの持つ危険性に、私たちがどう向き合つていけばよいかを問います。



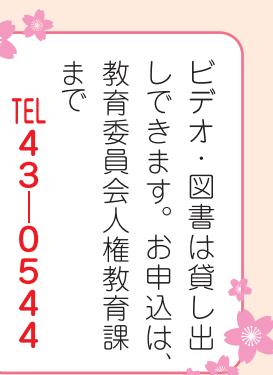
好評の前近代部落史『これでわかつた! 部落の歴史』の続編。近現代の新しい部落史を大学での講義とともに部落問題と人権問題との関係も視野に入れて新たに執筆。多くの史料・図表・写真を使っての具体的でわかりやすい入門書。



穢とは人間をとりまく自然・社会関係の秩序を乱す行為であり、祓とは秩序を回復する行為であると論じて、穢とは何かを考える画期となつた歴史的な一冊の増補版。旧版に加え、著者の穢れに関する論考をすべて1冊にまとめた。



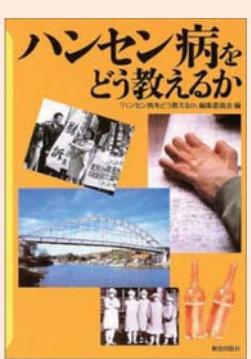
江戸社会の底辺に生きた被差別民衆の生活史を平明に描く。



ハンセン病をめぐる裁判で国は隔離政策は断絶された。しかし、正しい情報と知識はまだ完全に普及していない。ハンセン病の歴史、医療、福祉、人権などをさまざまな角度から検証した、人権教育に適した一冊。

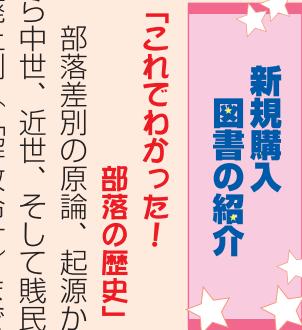


加東市マスコットキャラクター  
「加東 伝の助」



TEL 43-0544

まで  
ビデオ・図書は貸し出  
しできます。お申込は、  
教育委員会人権教育課



部落差別の原論、起源から  
中世、近世、そして賤民  
廃止例（「解放令」）まで

「これでわかつた！」

新規購入  
図書の紹介

発行

加東市教育委員会  
加東市人権・同和教育研究協議会

〒673-1493  
兵庫県加東市社50  
TEL 0795-43-0544

FAX 0795-43-0559

「弾左衛門」  
大江戸もつ一つの社会

「ハンセン病をどう教えるか」

## ● ● ● 本人通知制度 ● ● ●

本人の知らないうちに不正に職権等を利用して「出身地」「家族構成」などを調べられることがあります。  
代理人や弁護士など第三者が住民票の写しや戸籍謄抄本などをした場合に、本人に知らせる制度が「本人通知制度」です。通知を希望する人は事前登録が必要ですので登録手続きをしましょう。

※市ホームページから詳細をご覧いただけます。（<http://www.city.kato.lg.jp/kakuka/shimin/honnintuchi.html>）

【問い合わせ】市民課（庁舎1階） 電話：43-0390